

- 1 平安時代初期まで、日本が中国（唐）へ文化や制度を学ぶために派遣した使節を何という？
① 遣明使 ② 遣隋使 ③ 遣新羅使 ④ 遣唐使 ☐ ☐
- 2 平安時代中期に、貴族社会を題材とした長編物語『源氏物語』を執筆した女性作家は誰？
① 清少納言 ② 紫式部 ③ 和泉式部 ④ 菅原孝標女 ☐ ☐
- 3 平安時代初期に、唐で密教を学んで帰国し、高野山を拠点として真言宗を開いた僧は誰？
① 最澄 ② 聖武天皇 ③ 空海 ④ 行基 ☐ ☐
- 4 娘を天皇の后にして天皇の親戚となり、藤原氏の全盛期を築いた人物は誰？
① 藤原道長 ② 藤原頼通 ③ 藤原良房 ④ 藤原基経 ☐ ☐
- 5 『源氏物語』を書き、平安時代の国風文化を代表する女性作家は誰？
① 和泉式部 ② 菅原孝標女 ③ 紫式部 ④ 清少納言 ☐ ☐
- 6 院政を行うために、天皇の住む御所の外に設けられた上皇の執務機関を何という？
① 院庁 ② 蔵人所 ③ 政所 ④ 検非違使 ☐ ☐
- 7 平安時代後期に藤原氏の栄華の象徴として平等院鳳凰堂を建立した、当時の政治の実権を握っていた人物は誰？
① 藤原頼通 ② 藤原基経 ③ 藤原道長 ④ 藤原良房 ☐ ☐
- 8 「この世をば わが世とぞ思う 望月の 欠けたることも 無しと思えば」という歌を詠み、摂関政治の全盛期を築いた人物は誰？
① 藤原良房 ② 藤原道長 ③ 藤原基経 ④ 藤原忠平 ☐ ☐
- 9 平安時代中期、天皇が幼いときに補佐する役職を何という？
① 関白 ② 征夷大將軍 ③ 太政大臣 ④ 摂政 ☐ ☐
- 10 平安時代に瀬戸内海地方で海賊を率いて反乱を起こした人物は誰？
① 平将門 ② 藤原純友 ③ 藤原秀郷 ④ 平貞盛 ☐ ☐
- 11 藤原頼通が宇治に建てた、阿弥陀如来をまつる堂を何という？
① 平等院鳳凰堂 ② 中尊寺金色堂 ③ 法隆寺金堂 ④ 東大寺大仏殿 ☐ ☐
- 12 日宋貿易で力をつけた平氏一族が厚く信仰した、安芸国にある神社を何という？
① 厳島神社 ② 日光東照宮 ③ 出雲大社 ④ 春日大社 ☐ ☐
- 13 国司が中央政府から認められた、現地の税を集める権利を何という？
① 徴税権 ② 裁判権 ③ 軍事権 ④ 外交権 ☐ ☐
- 14 平安時代初期、朝廷の支配が及びにくかった日本の北東部地域を何という？
① 東北地方 ② 四国地方 ③ 九州地方 ④ 近畿地方 ☐ ☐
- 15 平安時代中期に、地方の統治や徴税などの実務を一任された地方官を何という？
① 郡司 ② 目代 ③ 太宰帥 ④ 国司 ☐ ☐
- 16 平将門が乱の中で自らを称し、独立した政権を立てようとした称号は何？
① 天皇 ② 上皇 ③ 法皇 ④ 新皇 ☐ ☐



① 隠す

赤シートで赤字を隠す。白黒なら右の列を折る

② 言う

解説を読んで、用語を口に出す

③ 印を付ける

言えたら□にチェック

問	解説	▼ここで折る	答え	言えた
1	遣唐使 は、天皇の命を受けて唐へ派遣された公式の外交使節団です。		4 遣唐使	☐
2	紫式部 は藤原道長の娘に仕えた女房であり、宮廷社会の複雑な恋愛や人間模様を描いた長編小説『源氏物語』を執筆しました。		2 紫式部	☐
3	空海 は遣唐使として唐へ渡り、恵果から密教の教えを授かりました。		3 空海	☐
4	藤原道長 は、娘を次々と天皇の妃として入内させることで、天皇の外戚として揺るぎない地位を確立しました。		1 藤原道長	☐
5	紫式部 は、藤原道長の娘に仕えながら、『源氏物語』を執筆しました。		3 紫式部	☐
6	院庁 は、院政における実務的な行政機関であり、上皇の意志を国家政策として実行する役割を持ちました。		1 院庁	☐
7	藤原頼通 は、摂政・関白として約50年間政治の実権を握りました。		1 藤原頼通	☐
8	藤原道長 は、娘たちを次々と天皇や皇太子の後とすることで、揺るぎない地位を築きました。		2 藤原道長	☐
9	摂政 は天皇が幼少の際に代理として政治を行う役職であり、成人後は関白として補佐しました。		4 摂政	☐
10	藤原純友 は、瀬戸内海を拠点とする海賊のリーダーとして勢力を持ち、朝廷に対して反旗をひるがえしました。		2 藤原純友	☐
11			1 平等院鳳凰堂	☐
12	平氏一族は、安芸国にある 厳島神社 を厚く信仰し、社殿を豪華に造り替えました。		1 厳島神社	☐
13	10世紀頃、朝廷は国司に一定額の税収を保証させる代わりに、 徴税権 や地方の行政権を大幅に委譲しました。		1 徴税権	☐
14	東北地方 には、朝廷の支配に従わない人々が生活しており、朝廷側は彼らを「蝦夷」と呼んで服属させようとしていました。		1 東北地方	☐
15	国司 は地方の政治や徴税を一手に引き受ける地方官です。		4 国司	☐
16	平将門は勢力範囲を支配下におくと、朝廷から認められない権力として、あえて「 新皇 」という称号を名乗りました。		4 新皇	☐

言えなかった用語ノート